

オートバイ運転者の安全意識と運転行動の比較 —アジア都市を対象として—

日本大学 学生会員 ○御代川 岳

日本大学 非会員 小泉 陸

日本大学 正会員 福田 敦

1. はじめに

アジア諸国では近年、モータリゼーションの進展により交通事故死者数が大変増加しており、その7~8割がオートバイに関する事故となっている。オートバイによる事故件数を減少させるためには運転者に安全運転を促す必要があるが、前提となるオートバイ運転者の交通安全意識などが十分に把握されていないのが現状である。

そこで本研究では、アジア諸国にてオートバイ運転者の乗車時における安全意識や運転行動に関するアンケート調査を実施し、比較することでアジア各国における運転者の交通安全意識、運転特性を把握することを目的とする。

2. 既存研究の整理

早川ら¹⁾は、(社)人間生活工学研究センターにて自動車運転者の走行に取り組む態度や志向、考え方を調査する方法を開発したアンケートを用いて、日本やタイなどの東南アジア諸国の運転者を対象に調査を実施し、国によって運転者の交通ルール遵守意識と運転スタイルが大きく異なり、これが運転者の安全意識に大きく影響することを明らかにしている。

Leksmono ら²⁾は、Persian Motorcycle Rider behavior Questionnaire (以下、MRBQ)を基にオートバイ運転者を対象としたアンケートを作成しオートバイ運転者の運転行動を定量的に把握している。

これに対して、筆者らは、上記の研究を参考にオートバイの運転者に向けたアンケートに改良し、アジア諸国にてアンケート調査を実施し、運転スタイルと運転行動を比較するものである。

3. アンケート調査の実施

アンケート調査の対象国は、交通状況の異なる日本、タイ、ベトナム、インドネシア、インドの計5ヶ国とし、各国の言語で作成し実施した。回答の得られた国別・年

代別の回答数は以下の通りである。

表-1 各国における年齢別のアンケート回答数

	10代	20代	30代	40代	50歳以上	合計(人)
Japan	12	32	8	6	15	73
Thailand	13	115	21	7	0	156
Vietnam	9	41	9	3	0	62
Indonesia	21	25	5	5	1	57
India	3	34	3	0	0	40

4. 解析結果

(1) オートバイ運転者の運転スタイル

運転スタイルは、①運転スキルへの自信、②運転に対する消極性、③せっかちな運転傾向、④几帳面な運転傾向、⑤信号に対する事前準備的な運転、⑥ステイタスシンボルとしてのオートバイ、⑦不安定な運転傾向、⑧心配性的傾向、⑨虚偽尺度の9尺度に分けて、解析を実施した。各国で解析し比較した結果を表-4に示す。

運転スタイルを比較した結果、日本は全体的に数値は低く、各国でも大きな差はあまり見られなかった。また、運転に対する消極性、虚偽尺度については他国と大きく異なる点が見られた。

(2) オートバイ運転者の運転行動での解析結果

運転行動は、オートバイを走行中の運転者自身の行動と他の運転者の行動について、a. 速度、b. 運転中、c. 右左折追い越し、d. 法律違反、e. 減速、f. Uターン、g. 逆走、h. 乗車定員違反の8項目に分けて解析を実施した。各国での比較した結果を表-4に示す。また、当てはまる傾向が高い場合、その項目を違反している可能性が高いことを示している。

国別の回答結果の比較では、日本以外の国では、他人の運転者の行動として、Uターン、逆走、乗車定員違反との回答が多かった。この結果からは、自分は守っているが他人は守っていないと認識していることを表している。この点は、運転スタイル調査で虚偽尺度が高い結果と符合している。

(3) オートバイ運転者の個人属性での解析結果

個人属性では、性別や年齢以外にも、オートバイの利

キーワード 交通安全, オートバイ, 交通安全意識, 運転行動, 運転スタイル

用目的、任意保険、免許の取得、事故歴などになっている。表-2に、交通事故歴と人保険の加入歴と免許の取得環境の関心の国別比較を示す。

表-2 各国における個人属性の比較結果

		Japan	Thailand	Vietnam	Indonesia	India
事故歴	ない	73%	35%	53%	26%	51%
	1回	18%	26%	29%	26%	10%
	2回	7%	22%	10%	16%	8%
	3回以上	3%	17%	8%	33%	31%
任意保険	加入している	71%	42%	77%	22%	62%
	加入していない	29%	58%	23%	78%	38%
免許を取得した際にどこで講習を受けたか	教習所にて訓練	83%	15%	65%	2%	3%
	個人にて訓練	7%	40%	19%	86%	66%
	講習会にて訓練	4%	36%	10%	8%	16%
	販売代理店にて訓練	0%	1%	2%	0%	3%
	その他	6%	8%	4%	4%	13%

事故歴で比較した結果、日本、ベトナムでは事故歴の割合は低く、逆にタイ、インドネシアでは、事故歴がある運転者の割合が高くなる結果となった。事故歴が高い国では任意保険の未加入者が多く、また個人で訓練を行う割合も高くなる結果となった。

(4) 免許の取得手段と事故歴との関係性

最後に運転者に対する交通安全教育の方法によって事故歴に違いがあるのかを把握するために、同じ東南アジア諸国であるタイとベトナムを対象に免許の取得方法と事故歴との関係性についてクロス集計を実施した。結果を下記の表-3に示す。

表-3 免許取得手段と事故歴でのクロス集計

取得手段	教習所		講習会		個人	
	Thailand	Vietnam	Thailand	Vietnam	Thailand	Vietnam
なし	19%	62%	35%	40%	35%	56%
1回	50%	26%	28%	20%	19%	26%
2回	25%	9%	23%	20%	30%	9%
3回	6%	3%	15%	20%	16%	9%

クロス集計の結果、ベトナムの教習所で取得した運

転者の事故率の割合は低い、タイの教習所で取得した運転者の事故率の割合は高くなる結果となった。また、講習会と個人での訓練に関しては、大きな違いは見られなかった。これらにより、教習内容が安全運転行動に大きく影響している可能性が高いことが明らかになった。

5. おわりに

本研究では、アジア諸国にて運転スタイルと運転行動をアンケート調査にて収集し比較を行った。その結果、国によって交通安全意識に違いがあること、特徴的な危険運転行動とそれに対する自他による認識の違いがあること、運転教習内容が安全運転行動に影響していることなどを把握することができた。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策の関係でリモートでの調査となったためサンプルに偏りが生じているので、今後サンプル数を増加して解析を続ける必要がある。

参考文献

- 1) 早川弘美, 福田敦, 福田トウエンチャイ, 岡村誠, アレックス・フィローネ, グエンバンチュオン: フィリピン・ベトナム・日本における交通ルール遵守意識と運転スキルの関連性の比較分析, 日本大学理工学部学術講演会予稿集, 54th, ROMBUNNO. F1-1, 2010.
- 2) Leksmono Suryo Putranto, Ivan Skyler Anjaya : Initial development of Indonesian motorcycle rider behavior, 9th Asia Pacific Conference on Transportation & the Environment, 2014.
- 3) 社団法人人間生活工学研究センター: 「HQL 式運転スタイルチェックシート解説書」, 2003.

表-4 各国における運転スタイルと運転行動の比較結果

